

令和4年度 第1回徳島市立図書館協議会 会議録要旨

- 1 日 時 令和4年9月20日(火) 14:00~15:30
- 2 場 所 徳島市役所本館13階 大会議室
- 3 出席者 委員 委員長 三木 鈴江(家庭文庫代表)
副委員長 櫛谷 友己(四国大学日本文学科 非常勤講師)
委員 小川 陽子(川内中学校 校長)
乾 修治(市立高等学校 校長)
本田 守(市文化協会 会長)
板東 恵子(市社会教育委員長/市婦人連絡協議会会長)
諏訪 公子(市人権教育・啓発推進協議会 幹事)
藤田真由美(市議会文教厚生委員会 委員長)
竹内 紘子(日本児童文学者協会徳島支部 支部長)
福島 吉美(市少年を守る母の会 会長)
小林 敬治(県立図書館 館長)
- 事務局 市教委(社会教育課)伊東課長、岡田課長補佐、山口係長、堤主査、板東主事
図書館(指定管理者)國金館長、廣澤副館長、渡部副館長、清水副館長、
岸本部署責任者、四国営業前川

4 議 題

(1) 令和3年度の事業報告について

館長より説明。

質疑応答

委員 実質利用者数が15,000人程度とのことだったが、類似都市ではどれくらいの割合なのか。

事務局 県庁所在地の図書館として人口比約6%は低く、10%は確保できればと考えている。2012年度の移転時には、実質利用者数が約24,000人で人口比約9%であった。貸出冊数は増加傾向にあるので、リピーターは定着している。

質疑応答

委員 そごう撤退により入館者数が減ったが、現在の入館者の年齢層の特徴はあるか。

事務局 入館者の年齢統計は不明だが、貸出統計から、男女比は約3:7程度である。また年齢層では30~40代女性が非常に多い。貸出分類としては5類(料理・手芸等)や文学などである。最も利用が少ない年齢層は50~70代の男性である。若年齢

層も総計人数としては少ないが、人口割合から判断すると10代以下の利用は、全体の約7割程度である。

委員 ヤングアダルト世代（中高生）の利用はどの程度か。

事務局 全体の約3割程度になる。

委員 利用の少ない世代や年齢層が図書館に来ない理由を知るべきであり、来ない層に向けて、奇抜なアイデアでアピールを行うことも必要である。他館での事例では小説家を目指す人のためのブースなどもあった。わくわくするようなイベントや駅前の立地の良さを活用する方法を検討してはどうか。

事務局 徳島市ホームページにて図書館アンケートを実施中であり、結果を分析し、今後の運営に繋がればと考えている。また、ヤングアダルト世代については、当館でYA（ヤングアダルト）ボランティアにて定期的に集まり座談会などを行っている。また自習スペースができたことにより、足を運んでくれる人は増えた。

質疑応答

委員 徳島県や徳島市はPRが上手くなく、横の連携が不十分であると思われるので、文学書道館や博物館と連携してみたりしてはどうか。

図書館利用が少ない50～70代の男性層は、歴史や科学などに興味を持つ人が多いのではと思う。博物館イベントとリンクした本を用意し、イベント参加者を図書館でも獲得するのはどうか。

イベント情報などの広報について、「図書館に来て情報を知る」というのではなく、駅前図書返却ポストにイベントポスターを掲示して広報するなどの方法により、今あるものも上手に使って、もっと積極的にアピールしてみてもどうか。

事務局 横の連携について、今後も様々な形で連携を行い、図書館のPRに努める。

質疑応答

委員 1.令和3年度の事業報告(3)電子図書館について『システム更新によりパスワード発行はなくなった』とはどういう意味か。

事務局 利用者カードと一括管理・利用できるようになったため、別途電子図書館用パスワード発行をする必要がなくなったためである。

委員 パスワード発行の有無は選択可能か。

事務局 利用者カード発行時に自動的に発行される。システム更新により、図書館資料と電子図書資料を一括で検索できるようになり、検索の幅が広がるという利点も生まれた。

質疑応答

委員 蔵書の収納が限界に達しているように思う。書庫の増設を検討してみてもどうか。また、除籍対象になる図書が県内において所蔵が一冊もないのは好ましくないと思うので、この様な図書は県内の図書館間で所蔵するのはどうか。

事務局 蔵書スペースの増設は、今まで同様今後も教育委員会へ要望していく。また、除籍については、県内の蔵書状況を見ながら決定しており、今後も注視していきたい。

質疑応答

委員 マイナンバーカードの利用はどれくらいか。

事務局 現在の登録者は 58 人である。マイナンバーカードは県立図書館でも利用できる。

質疑応答

委員 図書館の相互利用について、藍住町以外にはあるのか。

事務局 北島町、石井町とも連携している。今後も様々な形で連携を深めていきたい。

(2) 令和 4 年度の事業活動について

館長より説明。

質疑応答

委員 在宅送本は特定の方向けなのか。

事務局 現在は障害者手帳所持者のみが対象となっている。対象の拡大を考えているが、現状のスタッフ人数では対応が不可能な場合もあり、教育委員会と協議中である。また郵送貸出の方法も検討中である。

質疑応答

委員 いずみ号について、地域によって利用の傾向はあるか。
利用者・冊数の多いところは巡回回数を増やすなどの工夫はされているのか。

事務局 現在 8 2 箇所を巡回しており、巡回地に合わせた本の入れ替えや、利用が多いところはスタッフ増員など、利用しやすい環境など工夫し取り組んでいる。また、新規巡回地希望もアンケート等により調査しているが、移動図書館はいずみ号 1 台のみによる運用なので可能な範囲で検討し、利用者の利便性を向上する。

(3) その他

図書館長より説明。

質疑応答

委員 学校との連携というところで言うと、徳島市立図書館において、徳島市立高校の広報 P R 動画の放映やパンフレットの配布を行ってもらっており、ご協力いただいている。